

そう だい
総 題 「創世記」
そうせい き

だいなな か
第7課 アブラハムと結ばれた契約
むす けいやく

りゅう じよんひよん
柳 鍾 鉉

あんしよせいく たず かみ しゅ なに こども
暗唱聖句：アブラムは尋ねた。「わが神、主よ。わたしに何をくださるのですか。わたしには子供がおりま
せん。家を継ぐのはダマスコのエリエゼルです。」(創世記 15:2、新共同訳)
いえ つ そうせい きじゅうご に しんきょうどうやく

いち あんそくにちごご
1. 安息日午後

こんしゅうわたし そうせい きじゅうごしやう かみ あいだ むす けいやく じゅうきゅうしやう めつぼう
今週 私たちは、創世記 15 章の神とアブラムとの間に結ばれた契約から、19 章のソドムの滅亡
から救われたロトの話までを学びます。神は信仰の父アブラハムを通して私たちにご自分の救いの計画を示
されました。
すく はなし まな かみ しんこう ちち とお わたし じぶん すく けいかく しめ

に にちようび しんこう
2. 日曜日：アブラハムの信仰

そうせい きじゅうご いち にじゅういち よ こども かみ み で もの よん
創世記 15:1～21 を読んでください。まだ子供がなかったアブラムに神は「あなたの身から出る者」(4
せつ こうごやく あと つ やくそく あた かれ そと つ だ てん あお ほし かぞ
節 口語訳) が跡を継ぐという約束を与えました。それから彼を外に連れ出して「天を仰いで、星を数えること
ができるなら、数えてみるがよい」(5節) とさらに言われます。アブラムは主を信じました。主はそれを彼の義と
みと ご かみ けいやく むす まぶた さ い もの あいだ しゅ とお
認められました。その後、神はアブラムと契約を結ばれます。そして、真つ二つに裂かれた生き物の間を主が通
られて契約は成立しました。神はアブラムとの契約をご自分の命にかけて誓われたのです。
けいやく せいりつ かみ けいやく じぶん いのち ちか

さん げつようび うたが
3. 月曜日：アブラハムの疑い

そうせい きじゅうろく いち じゅうろく よ かみ やくそく はい きめ
創世記 16:1～16 を読んでください。神の約束にもかかわらずアブラムがハガルのところに入ると決め
たのはアブラムの神に対する不信仰にも見えました。しかし、靈感を受けた使徒パウロは手紙の中で次のように書
かれます。「彼は、神の約束を不信仰のゆえに疑うようなことはせず、かえって信仰によって強められ、栄光を
かみ き よん にじゅう せいしよ ふにん つま ねが き い する
神に帰し、」(ローマ 4:20)。聖書はそのことについて、アブラムは不妊の妻サライの願いを聞き入れたと記し
ています。

よん かようび けいやく
4. 火曜日：アブラハムの契約のしるし

そうせい きじゅうなな いち じゅうきゅう よ かみ きゅうじゅうきゅうさい とし ふたたび あらわ
創世記 17：1～19 を読んでください。神はアブラムが 99 歳の時に再び現れます。そして
にじゅうよねんまえ けいやく むす しゅ やくそく しそん う く かえ
24 年前に契約で結ばれた主の約束 (子孫が生まれる) のことを繰り返されました。そしてアブラハムに割礼
けいやく あた かみ しん くれ う すべ しそん
という契約のしるしをお与えになります。それは神を信じたアブラハムだけではなく、彼から生まれる全ての子孫
あた すく やくそく しめ
のためにも与えられる救いの約束を示すものでした。

ご すいようび やくそく おとこ こ
5. 水曜日：約束の男の子

そうせい きじゅうはち いち じゅうご よ さん にん たびびと じぶん てんまく むか かみ じ
創世記 18：1～15 を読んでください。アブラハムは三人の旅人を自分の天幕に迎えて、まるで神ご自
しん てあつ じゅうさん に か き
身がおられるかのように手厚くもてなしました。ヘブライ 13：2にも書かれているように、アブラハムは気づか
てんし じだい たびびと じゅうよう もつと けい い はら
ずに天使たちをもてなしたのです。アブラハムの時代に旅人をもてなすのは、とても重要で最も敬意を払わな
しゅうきょうきぎむ たびびと ひとり つま おとこ こ う じっせつ
ければならない宗教的義務でした。アブラハムに旅人の一人が「あなたの妻サラに男の子が生まれる」(10節)
はなし うし てんまく い ぐち き わら
という話をしました。サラはすぐ後ろの天幕の入り口で聞いて笑いました。

ろく もくようび
6. 木曜日：ソドムのロト

たびびと ひとり うんめい き よげんしゃ かみ
旅人の一人からソドムの運命について聞かされた預言者アブラハムは神にソドムにいるロトのためにとりなし
ねが まち ただ ひと じゅうにん し いじょう
の願いをします。しかし、ソドムの町に正しい人が十人もないことを知らされたアブラハムはそれ以上とりなし
ねが まち む ふたり てんし おい じぶん いえ むか てあつ
の願いをしませんでした。ソドムの町に向かった二人の天使たちをアブラハムの甥ロトが自分の家に迎え、手厚く
まち ひ ほろ き ふたり むすめ つま つ まち
もてなしました。そこでソドムの町が火で滅ぼされることを聞かされたロトは二人の娘と妻を連れてソドムの町を
はな つま うし ふ む しお はしら よ お す わたし
離れますが、ロトの妻は後ろを振り向いたので塩の柱になりました。世の終わりに住んでいる私たちはどのよう
い よ
に生きれば良いのでしょうか。

なな きんようび けんきゅう
7. 金曜日：さらなる研究

「われわれの周りには、ソドムにのぞんだのと同じように、希望なく恐ろしい破滅に陥っている魂がある。
まいにち めぐ きかん と ちゅうりやく せいしん せいしん かみ こ
毎日、だれかの恵みの期間が満ちている。(中略)アブラハムの精神は、キリストの精神であった。神のみ子ご
じしん つみびと いたい ちゅうほしゃ つみびと しょくざい だいか はら にんげん たましい
自身が罪人のために偉大な仲保者になられた。罪人の贖罪のためにその代価を払われたかたが、人間の魂
かち し きぼう ひかり ろくじゅうはち ろくじゅうきゅう
の価値を知っておられる」(『希望への光』 68、69 ページ)